
ねえ、僕らの思いは心に届きますか？

佳生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねえ、僕らの思いは心に届きますか？

【Nコード】

N7045C

【作者名】

佳生

【あらすじ】

確な物語は貴方が想像してください。知らない僕らには、想像して胸に刻むしかないのでから。

（前書き）

今はまだ、知っているだけでいいんです。思っ
て下されば幸いです。

<<< 僕思

僕達の命はなんなのでしよう。

僕は、まだ戦いたい。

死んでサヨナラだなんて……僕はまだまだ戦いたい。

なぜ。なぜ……こんな。

戦えるのに。まだまだ戦えるのに！

震える手さえ、僕は騙して、今まで戦ってきたのに。

無駄死にのようじゃないか。

僕達は何のために戦っている？

誰かの……いいや、誰かじゃない。命の為に戦ってるんだ。

命の為に戦ってるのに、その命を捨てて、本当に捨てに行くなんて。

辛い。これ以上、これから死んで逝く命を守れないだなんて……。

でもね。それしか方法が無いから、僕は死ぬ。

僕は逝く。僕達は逝く。

だから、どうか……幸せに。

君よ、貴方よ、御前よ……幸せになってください。

僕達の命の上に建つ平和を、大切に、大切に、生きてください。

僕達の、この命。どうか大切に生きて下さい。

ありがとう。世界。ありがとう。母上。ありがとう。父上。ありがとう。君。ありがとう。貴方。ありがとう。御前。

皆皆……ありがとう。

ああ。分かっていました。貴方が神風となったこと。

神風。どれ程美しい言葉でしょう。

美しい言葉。貴方には似つかわしい。

神風となる貴方達は美しい。私は貴方を忘れません。

しかし神風に守られるほど、ここは美しくはない。

輝く命を捨てるようなこの場所は、美しくないのです。

ああ、怖かったでしょう。辛かったでしょう。

迫る鉄玉。迫る炎。迫る海面。

貴方の苦痛、私には分かるのです。

痛かったでしょう。熱かったでしょう。冷たかったでしょう。

貴方は沢山の者を失いました。

守りたい者を守れないまま。

けれども貴方は私を守って下さいました。

私は貴方の思いを受けて、この平和を大事に生きていきます。

貴方の為に、貴方の残した平和を。

<<<貴方思

どうしてお前が逝ったんだ。

なぜ。なぜなんだ！

私のどこがいけない。

お前にはまだまだ輝くものがあるというのに。磨けば眩く輝くというのに。

私より、お前が……。

若い者は未来をつむぐ輝き。

なあ……どうして……。

ああ。分かっていた。分かっていたさ。

お前は私より優れている。

だからこそ逝った。

分かっていたさ！

分かってたからこそ……こんなに心が痛いんだ。

こんな事を言ってもどうにもならない。

だが、言わせてくれ。

どうか、こんな私を許してくれ。私は死ねない……。

<<<御前思

何でだ。俺、知ってたんだぞ。

もう直ぐ、こんな終わるって知ってたんだぞ！

なんでもっと早く言ってくれなかったんだ、畜生！

テメエ様がそう言ってる間に、その間にだって……。

アンタもアンタだ……ありがとうじゃねえ。平和に生きてくれじやねえ！ アンタはどうなんだよ。アンタ、アンタが居ないと意味

ねえじゃねえか。

何様気分だ、ああ？

神風って呼ばれて満足かよ。

俺だって、俺だってなあ……後一年したらアンタと一緒に戦えたのに。

戦う必要がなくなったのは良かったさ。けどな。

何で……帰ってこない。

嬉しいのか、悲しいのか、悔しいのか、苛立たしいのか……分らない。

でも、全ては終わっただんです。

ねえ、僕達の思いは届きますか？

想像を膨らませてください。恐怖してください。泣いてください。胸を痛めてください。

平和を持ってきた、消えた命を思ってください。

僕らだけじゃない。

帰ってこない僕ら。

飢えた僕ら。熱病に倒れた僕ら。銃弾に倒れた僕ら。爆発でバラバラになった僕ら。痛みと恐怖に押し潰されて逝った僕ら。一瞬にして消え去った僕ら。相手と心中した僕ら。何をする間もなく逝った僕ら。

僕らの願った幸せ。僕らの願った平和。

それが当たり前となった世界を、僕らは誇らしく思います。

だから。だからどうか、その普通の世界を、皆さんは精一杯生きて下さい。

それだけで僕らは満足なのです。

あわよくば、一年の内、一日でも僕らの事を思っ日を。

平和を喜び、幸せを確かめ、感謝する日を。

僕らの思いを、少しだけ感じてください……。。

.

（後書き）

これは私の物語。貴方が彼らにどんな思いを抱くのか。貴方が抱いた思いが貴方の物語。その物語、どうか忘れないで下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7045c/>

ねえ、僕らの思いは心に届きますか？

2010年12月7日14時57分発行